

学 会 録 事

1. 2017 年度第 1 回持ち回り評議員会

第 1 回持ち回り評議員会 (2017 年 11 月 10 日～11 月 24 日) を開催し、【議案 1】「第 9 回アジア太平洋藻類学フォーラム (2020・札幌) を共催する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員 15 名のうち 12 名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

※ 2017 年度第 2 回持ち回り評議員会は継続審議となりました。

2. 2017 年度第 3 回持ち回り評議員会

第 3 回持ち回り評議員会 (2017 年 12 月 9 日～12 月 28 日) を開催し、【議案 1】「日本藻類学会会則第 3 条第 4 号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、特別賞 (2018 年 3 月授与) を右田 清治氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員 15 名のうち 12 名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。また、【議案 2】「日本藻類学会会則第 3 条第 4 号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、学術賞 (2018 年 3 月授与) を渡邊 信氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員 15 名のうち 12 名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

3. 自然史学会連合

2017 年度自然史学会連合総会が、2017 年 12 月 16 日に東京大学総合研究博物館ミューズホールで開催された。

<次期代表選挙>

出席団体 (計 35) による信任投票の結果、信任 34、白票 1 の得票多数にて大路樹生氏 (名古屋大学博物館) が次期 (2018 年 4 月～) 連合代表に決定した。

<報告事項>

1. 加盟団体の現状：40 学協会 (DNA 多型学会が新たに入会)。2. 運営委員会の開催。3. 博物館部会の開催。4. 九州大学所蔵の博物館資料の保全と継承に関する要望書。5. 講演会の開催：群馬自然市博 (1/21, 2016 年度事業) 参加者 40 名、大阪自然史博 (8/19) 参加者 182 名 (本学会からは島袋寛盛会員が「藻場がつくる海のにぎわい～ダイナミックな瀬戸内海に生きる海藻たち～」を講演)、アクアマリンふくしま (11/4) 参加者約 40 名 (本学会からは小田嶋祐希会員と北山太樹会員が体験教室「海藻グッズをつくろう」を出展)。参加者の増減について質問があり、運営委員会から毎年開催なので、連合としては長い目で見て、体験教室についてはかなりの参加者が見込まれることから、加盟学協会に協力を呼びかけた、との回答があった。6. 式典への出席。7. HP の運営：さくらインターネットサーバーをレンタル使用している。8. その他：日本学術会議協力学術研究団体の登録情報、『理科好きな子に育つふしぎのお話 365』出版後の経過 (韓国語版の出版, NTT ドコモのサービス (スゴ得コンテ

ンツ) を使った閲覧状況)、2017 年度生命科学系学会合同大会 (ConBio2017) への協賛。

<審議事項>

以下の 1～4 について承認された。1. 2016 年度決算案および同監査報告。2. 2018 年度予算案。3. 2018 年度事業案：加盟学協会の件 (日本動物行動学会の脱退、地理・分類学会の植物分類学会への合流にともなう加盟要件消失)、運営委員会の開催 (年 4 回程度を目途に開催予定)、博物館部会の開催 (年 3 回程度を目途に開催予定)、講演会の開催 (富山市立科学博物館にて開催予定、10/28 (日) を第一候補に調整中)、2019 年 ICOM 京都大会の件 (北里代表より、1) 連合の事業として ICOM 京都大会に参加すること (主にサイドイベントとして)、2) 連合内にそのための準備委員会を立ち上げる、が提案され承認された。予算は準備委員会の活動予算として「旅費」が計上されている)。4. その他：顕彰 (今後、自然史に貢献した個人を連合として顕彰 (感謝状などの形態も含む) する制度を検討したい、との提案が承認され、運営規則の改訂や予算化を伴う可能性を含めた検討を始めることになった)。

4. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第 17 回総会が 2017 年 1 月 6 日 (金) 10:00～12:00 に国立科学博物館上野本館講堂で開催された。峯 一郎庶務幹事が出席。

<報告事項>

1. 活動報告：(2017 年度) 生物科学科学会連合第 15 回定例会議出席 (4 月 1 日)、九州大学所蔵の博物館資料の保全に関する要望書を九州大学総長宛に提出 (4 月 13 日)、第 36 回役員会開催 (4 月 28 日)、日本分類学会連合データベース委員会からのアンケート依頼 (日本産生物種数リストの改訂および種名リストの作成の検討について) (6 月 30 日)、広島大学大学院生物圏科学研究科主催シンポジウム「ヒト、カブトガニ、干潟ー海はだれのもの？」後援 (9 月 24 日)、生物科学科学会連合第 16 回定例会議出席 (10 月 7 日)、遺伝学用語の改訂について、日本遺伝学会宛に意見書を提出 (12 月 30 日)。(2018 年度) 第 37 回役員会を開催 (東京大学総合研究博物館) (1 月 5 日)。2. ニュースレター：第 29 号を発行 (8 月 31 日)、第 30 号を発行 (12 月 4 日)。3. ホームページ：ホームページを維持・アップデートし、ニュースレターおよびシンポジウム情報を公開した。4. データベース：加盟団体に対して、日本に産する生物種数リストの改訂および種名リスト作成に関するアンケートを実施して、現状の把握と今後の活動方針についての検討を行った。「日本産生物種数調査」と「国内重要コレクション調査」の公開ページの維持管理を行った。5. メーリングリスト：メーリングリスト TAXA の会員数は 2017 年 12 月 31 日時点で「1,085 名 (2016 年末

から23名増)」。6. その他：国立沖縄自然史博物館設立について：村上哲明委員の現状説明に対して質疑応答が行われた。

＜審議事項＞

1. 2018～2019年度 役員の選出：役員会案が説明の後、承認された。2. 2018～2019年度 広報出版委員会委員の選出：役員会案が説明の後、承認された。3. 2018～2019年度 公開シンポジウム担当委員会の設立および委員選出：役員会案が説明の後、承認された。4. 2017年度決算：決算案（分担金支払状況、決算案（一般会計、特別会計）、会計監査報告）が説明の後、承認された。5. 2018年度事業計画 (1) 2018年第17回公開シンポジウムの開催（2018年1月6日 13:00～17:05 「分類学に関わる法律および新しい情報収集ツール」（国立科学博物館上野本館講堂））。(2) 2019年第18回公開シンポジウムの開催（2019年1月を予定）。(3) ニュースレター：31号（2018年5月発行予定）、32号（2018年10月発行予定）。(5) データベース：日本に産する生物種数リストの改訂および種名リスト作成に関するアンケート結果に基づいて、連合ホームページ上に現時点で公開されている種名リスト等へのリンクを整備する。「日本産生物種数調査」と「国内重要コレクション調査」の公開ページの維持管理を行う。(6) ホームページ：例年通りの予定。6. その他：(意見) 和名をどうするのか、という問題提起がなされ、連合でも今後議論を進めて行くことが確認された。

5. 水産・海洋科学研究連絡協議会

平成29年度第1回協議会が2017年5月30日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。鈴木秀和会員が出席。

＜議題＞

1. 平成28年度第2回水産・海洋科学研究連絡協議会議事

録案の確認：説明があり、承認した。2. 議長の選出：渡部氏が選出された。3. 副議長の選出：日本プランクトン学会（津田氏）、日本魚類学会（茂木氏）、日仏海洋学会（小松氏）が選出された。4. 幹事の選出：竹内氏、佐野氏が選出された。5. 各学会の情報交換：各学会の活動の紹介があった。6. 日本学術会議主催公開シンポジウムの開催について：開催日を2017年11月6日に決定、キーワードに水産基本計画および海洋基本計画を盛り込むこととし、今後の準備計画を決定した。7. その他：次回の会議日程などの予定が審議された。

平成29年度第2回協議会が2017年10月31日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。鈴木秀和会員が出席。

＜議題＞

1. 平成29年度第1回水産・海洋科学研究連絡協議会議事録案について：資料に基づき説明があり、承認した。2. 各学会の情報交換：各学会の活動が紹介された。3. 日本学術会議主催公開シンポジウム「沿岸地域を再生させるための水産業を考える」について：資料に基づきシンポジウムの説明があった。各学会へ参加者の呼びかけを依頼した。佐野氏よりシンポジウムの講演要旨集について11月1日の納品後に各学会へ郵送するとの説明があった。4. 日本学術会議「学術研究の円滑な推進を保証した名古屋議定書批准に向けての提言」について：廣野氏より資料に基づき説明があり、議定書に明記されていないデジタル配列情報について意見交換を行った。5. 来年度の運営方針について：渡部氏より本協議会の来年度の運営方針について提案があり、議論の結果、来年度も本協議会を継続し、今後の方向性の議論を進めるとともにそれに伴う規約の見直しも行うこととなった。6. その他：次回の会議は平成30年5月28日（月）に開催の予定。

訃報

本会会員 多田 匡秀氏は平成29年11月に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。日本藻類学会